

2025年3月期 第2四半期決算説明資料



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

(証券コード : 6863)
2024年11月13日

業 績 推 移

実績及び計画

24/3期上期

受注高 5,196百万円
(23/3期上期比▲9 %)売上高 4,531百万円
(23/3期上期比+13 %)営業利益 536百万円
(23/3期上期比+47%)

25/3期上期

受注高 5,102百万円
(前期比▲3 %)売上高 4,908百万円
(前期比+8%)営業利益 788百万円
(前期比+47%)

25/3期計画

受注高 10,600百万円
(前期比+6%)売上高 10,000百万円
(前期比+1%)営業利益 1,400百万円
(前期比+1%)

重点テーマ

- ◆ 市場の拡大
- ◆ 技術の進化
- ◆ 株主還元

いかなる環境下においても成長できる企業グループの実現

事業基盤の拡大強化

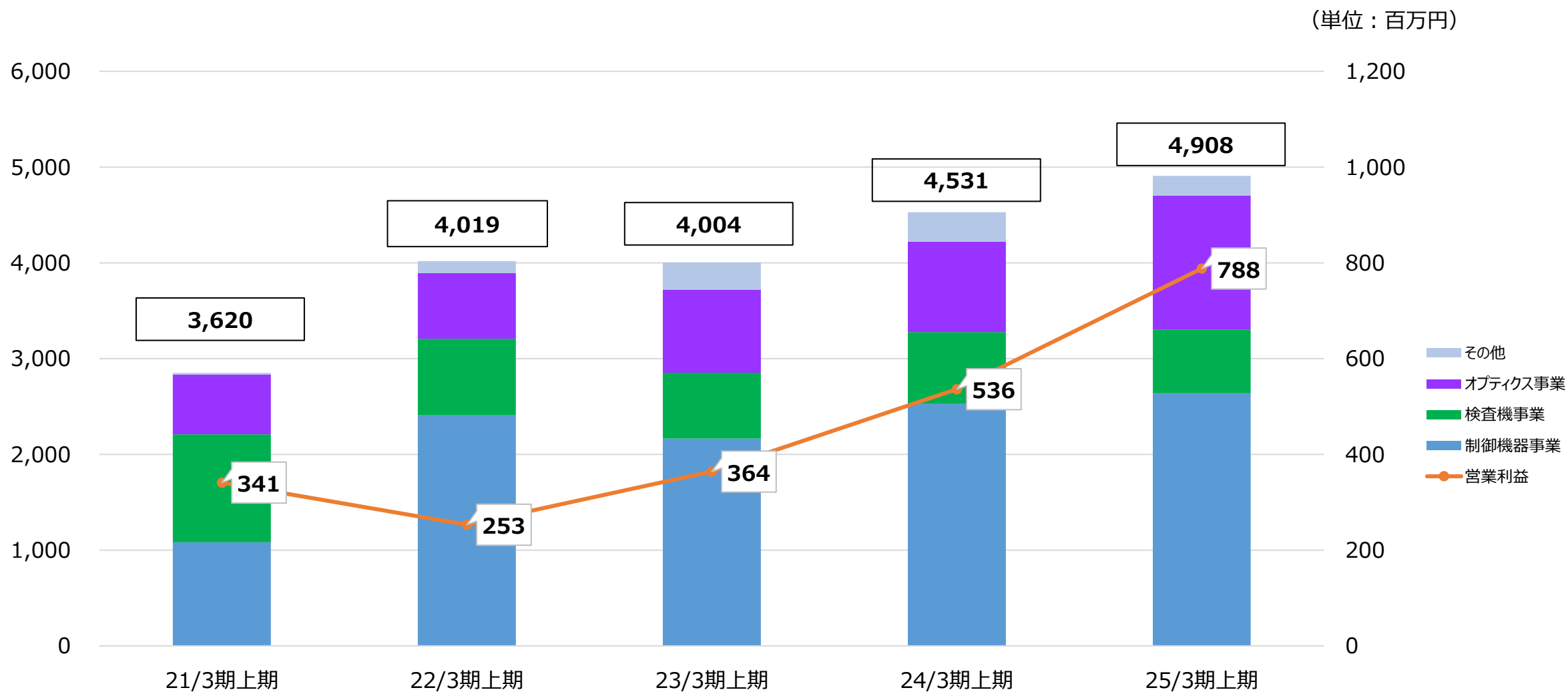
競争優位性の向上

25/3期上期の取組み

- ・ 子会社統合を含めた組織再編
- ・ 将来の成長を見据えたM&Aの実施
- ・ 半導体業界への展開強化に向けた商材拡大

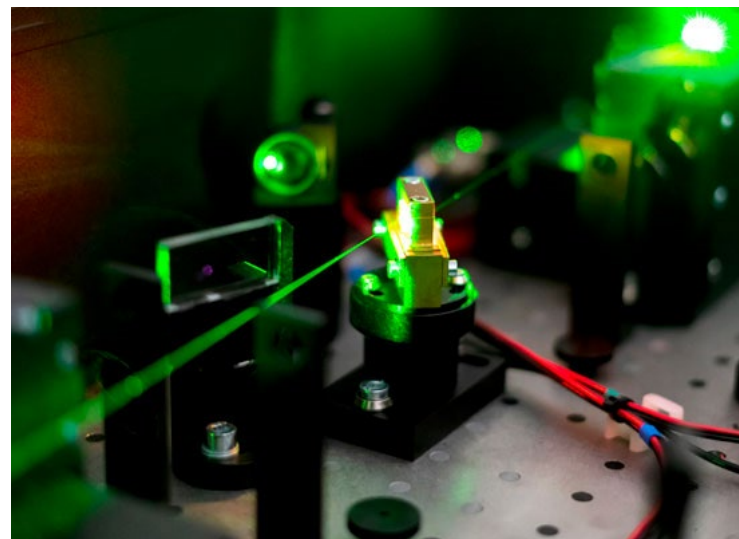
連結配当性向 45%以上かつ連結自己資本配当率（DOE）2.5%以上を目標

上期売上高・営業利益推移



※2025年3月期より従来のプロセス事業とウェブ事業を統合して制御機器事業としたことから、過去分を含めセグメントの表記を組み替えて表示しております。

- 1． 上期実績及び今期計画
- 2． 持続的成長に向けて
- 3． トピックス



1. 上期実績 及び今期計画

NIRECO

連結実績

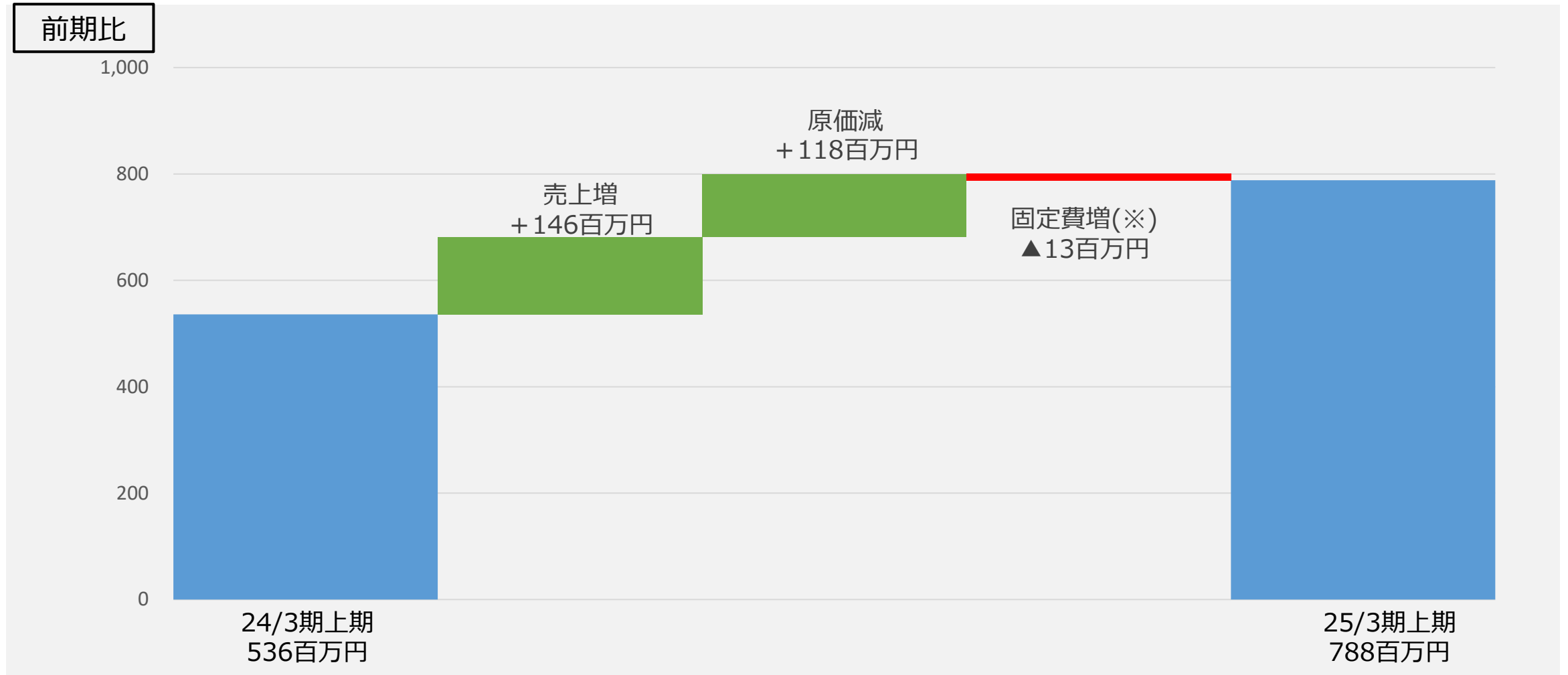
- 期初の注残水準が高水準であったことに加え、制御機器事業での組織変更を含む効率化や利益改善努力、オプティクス事業での高水準の稼働などにより大幅な増益
- 上期営業利益7.8億円は1989年の株式公開以来、2 番目の水準

(単位：百万円)

	24/3期	25/3期		増減率	
	上期実績	期初計画	上期実績	前期比	計画比
受注高	5,718	5,400	5,102	▲11%	▲6%
売上高	4,531	4,700	4,908	+8%	+4%
営業利益	536	420	788	+47%	+88%
営業利益率	11.8%	8.9%	16.1%	-	-
経常利益	589	470	845	+43%	+80%
経常利益率	13.0%	10.0%	17.2%	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	370	320	550	+49%	+72%
当期純利益率	8.2%	6.8%	11.2%	-	-
1株当たり当期純利益(円)	50.43	43.38	74.54	+48%	+72%
受注残高	6,057	6,789	5,648	▲7%	▲17%

営業利益増減要因

➤ 売上高の増加と原価抑制により、対前期比で大幅な利益増となった

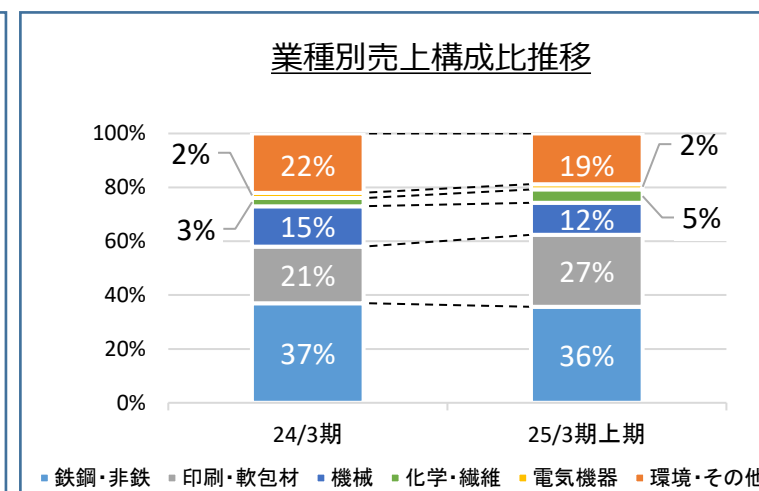
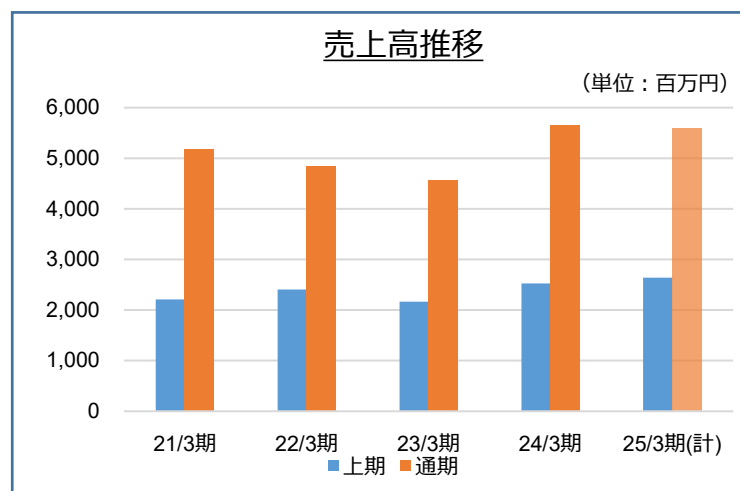
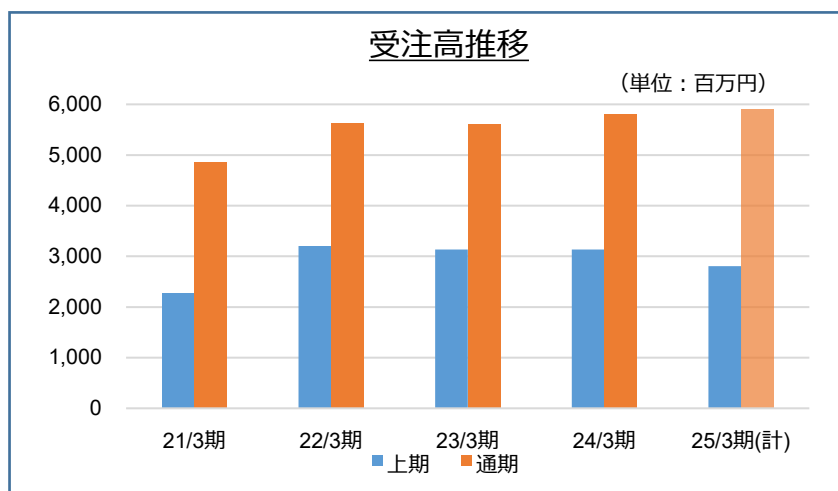


制御機器事業

- 鉄鋼業界の高品位化需要や更新需要などにより売上高・利益共に前年比増
- フィルム・印刷分野では、売上高は減少。利益向上施策奏功により、利益は前期比増

(単位：百万円)

	24/3期 上期実績	25/3期		計画	
		上期実績	前期比	通期計画	上期進捗率
受注高	3,133	2,806	▲10%	5,900	48%
売上高	2,526	2,638	+4%	5,600	47%
セグメント利益	410	653	+59%	1,020	64%
セグメント利益率	16.2%	24.8%	-	18.2%	-

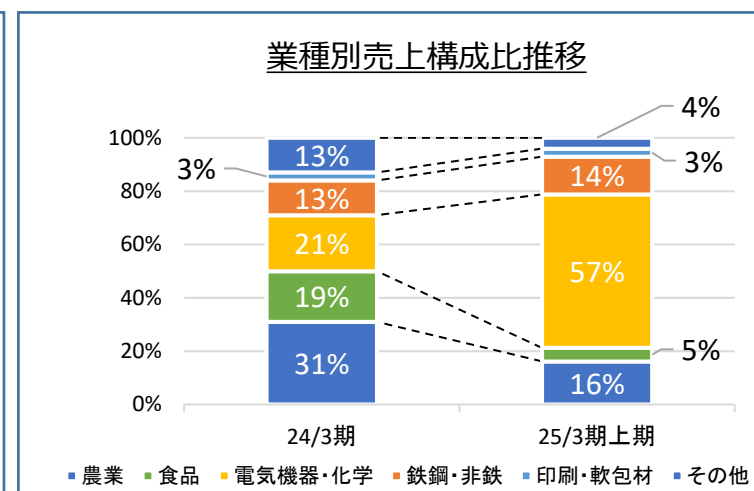
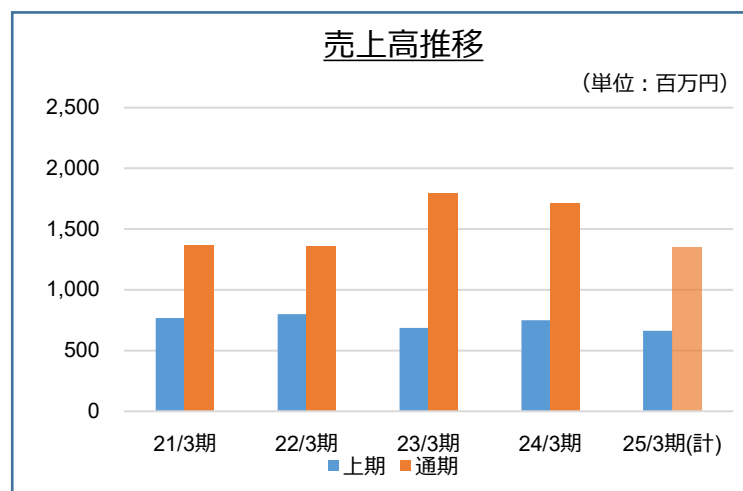
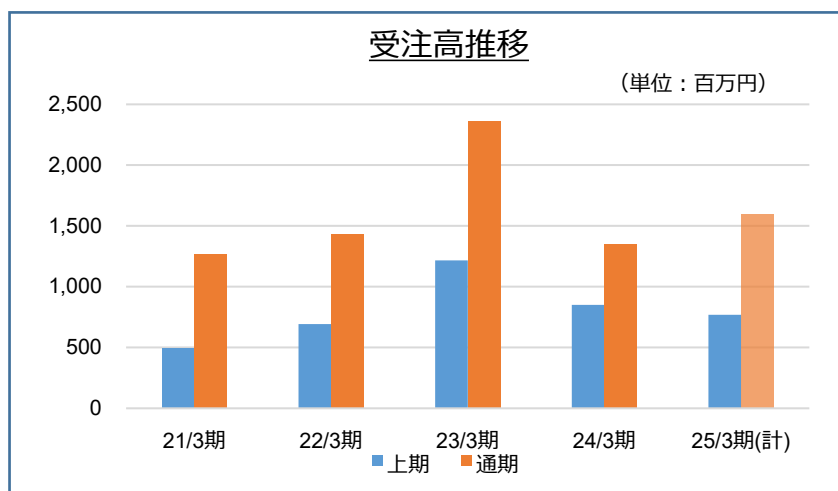


検査機事業

- 二次電池設備投資停滞などから無地検査装置受注は減。売上も顧客都合による後倒しなどにより対前年度比で減少
- 食品検査装置は納入時期の谷間にあたったことや大型案件不在で低調

(単位：百万円)

	24/3期 上期実績	25/3期 上期実績	前期比	計画 通期計画	上期進捗率
受注高	837	770	▲8%	1,600	48%
売上高	737	663	▲10%	1,350	49%
セグメント利益	-13	-63	-	30	-
セグメント利益率	-1.8%	-9.6%	-	2.2%	-

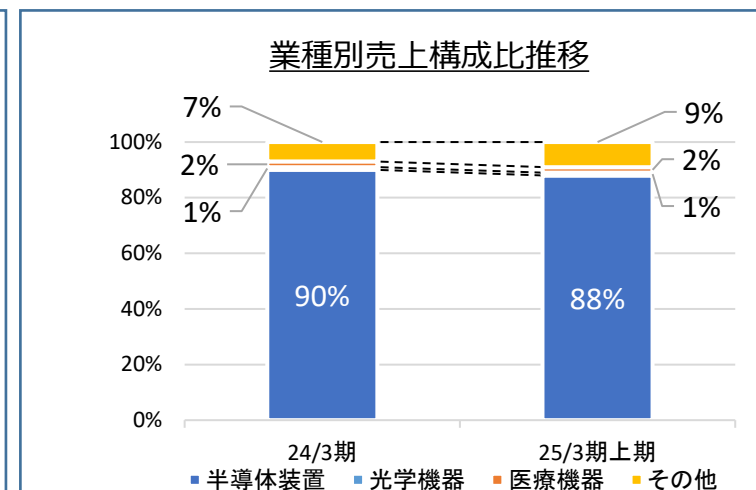
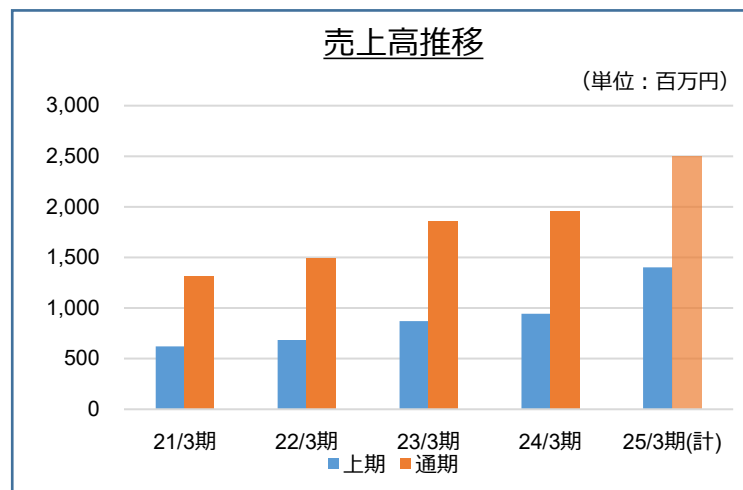
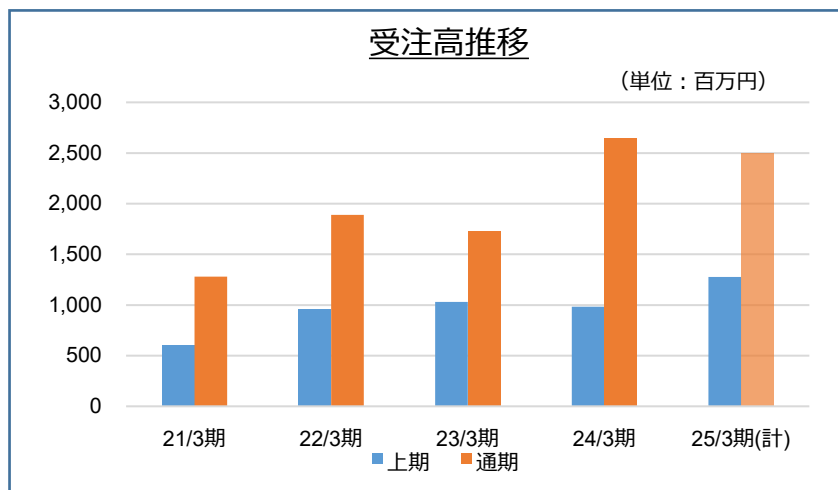


オプティクス事業

- ▶ 半導体製造装置業界からの受注旺盛。受注高、売上高、利益項目対前年度比増
- ▶ 光学部品分野で海外からの引合増。深紫外光分野で不可欠な部品としての認知が進む

(単位：百万円)

	24/3期 上期実績	25/3期		計画	
		上期実績	前期比	通期計画	上期進捗率
受注高	982	1,276	+30%	2,500	51%
売上高	944	1,402	+49%	2,500	56%
セグメント利益	376	526	+40%	920	57%
セグメント利益率	39.9%	37.5%	-	36.8%	-



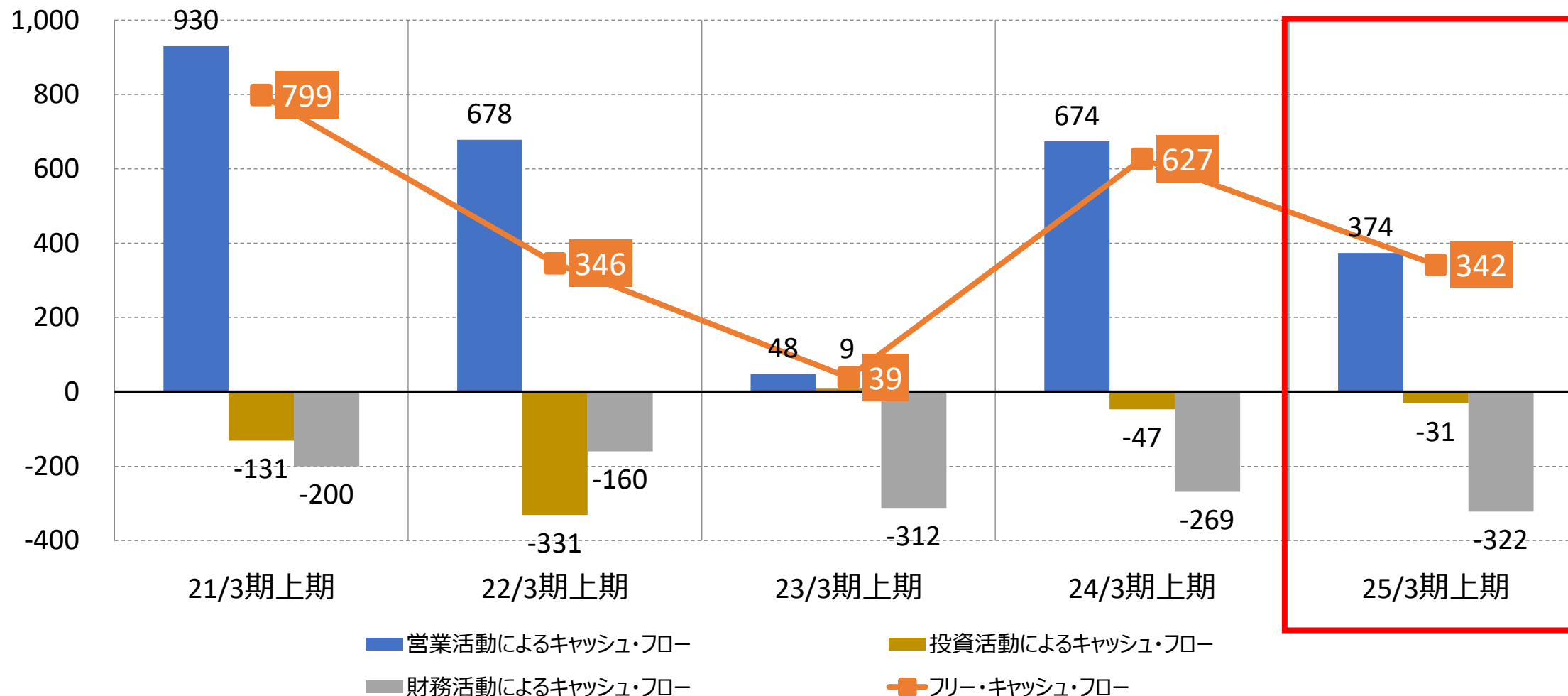
貸借対照表

(単位：百万円)

	24/3期		25/3期上期		前期末比 増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
現金・預金	4,354	23.4%	4,377	24.3%	+ 23
売上債権	4,176	22.5%	3,816	21.2%	▲ 360
棚卸資産	3,544	19.1%	3,880	21.5%	+ 336
その他流動資産	272	1.5%	174	1.0%	▲ 98
流動資産	12,347	66.5%	12,250	68.0%	▲ 97
有形固定資産	3,627	19.5%	3,605	20.0%	▲ 22
無形固定資産	176	0.9%	134	0.7%	▲ 42
投資その他資産	2,422	13.0%	2,016	11.2%	▲ 406
固定資産	6,226	33.5%	5,756	32.0%	▲ 470
資産合計	18,573	100.0%	18,006	100.0%	▲ 567
買入債務	576	3.1%	311	1.7%	▲ 265
その他流動負債	1,422	7.7%	1,254	7.0%	▲ 168
流動負債	1,998	10.8%	1,565	8.7%	▲ 433
固定負債	749	4.0%	608	3.4%	▲ 141
負債合計	2,748	14.8%	2,174	12.1%	▲ 574
自己資本	15,722	84.6%	15,740	87.4%	+ 18
純資産合計	15,825	85.2%	15,832	87.9%	+ 6
負債・純資産合計	18,573	100.0%	18,006	100.0%	▲ 567

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー概況：

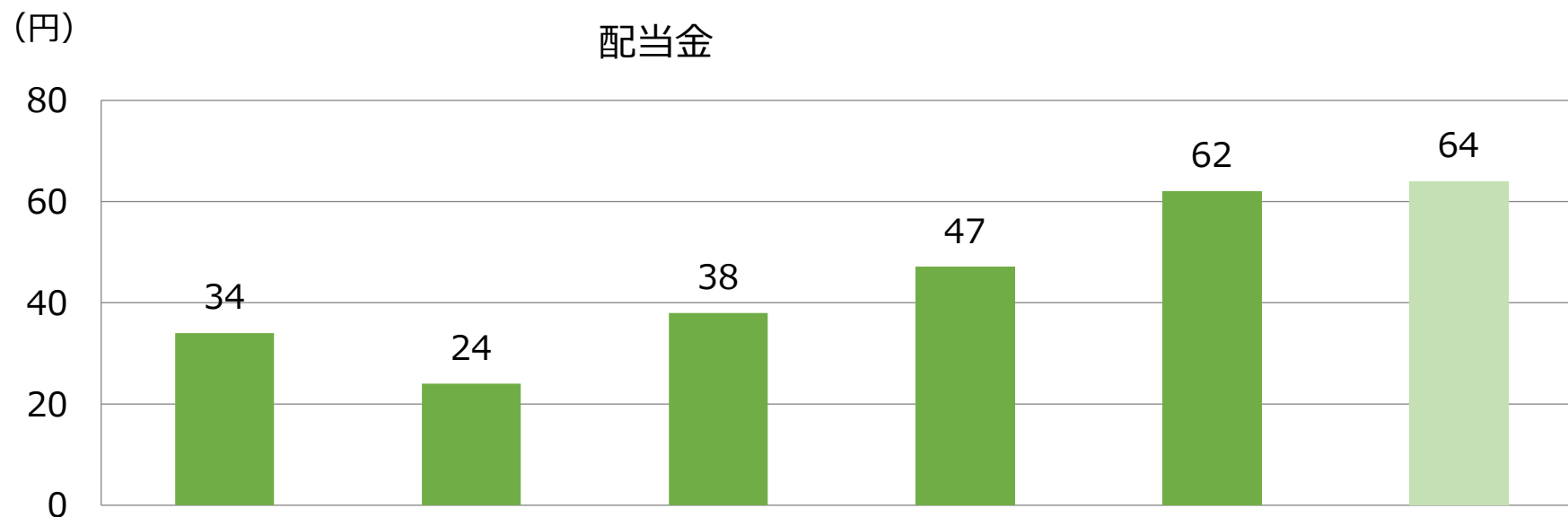
税金等調整前当期純利益 + 845百万円、減価償却費 + 135百万円

棚卸資産の増加 ▲300百万円、売上債権及び契約資産の減少 + 379百万円

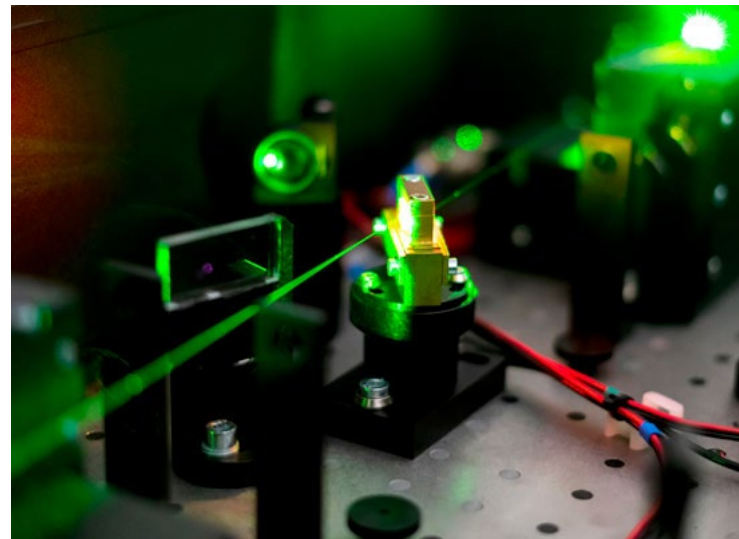
株主還元について

＜基本方針＞ 連結配当性向 45%以上かつ連結自己資本配当率
(DOE) 2.5%以上を目標

2025年3月期は4年連続で株式公開後最高配当額を更新予定



	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期 (予)
1株当たり当期純利益(円)	106.58	59.06	55.41	117.40	137.36	141.86
配当金(円)	34	24	38	47	62	64
配当性向(%)	31.9	40.6	68.6	40.0	45.1	45.0
DOE	2.0%	1.3%	2.0%	2.4%	3.0%	3.0%



2. 持続的成長に向けて

NIRECO

今期計画の状況

- 上期利益が好調であったことを受け、通期業績予想を上方修正。3年連続の増収・増益を目指す
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、買収子会社の負ののれんの影響もあり高水準を想定

	24/3期 実績	25/3期 上期実績	25/3期 計画	前期比	進捗率
受注高	9,970	5,102	10,600	+6%	48%
売上高	9,861	4,908	10,000	+1%	49%
営業利益	1,386	788	1,400	+1%	56%
営業利益率(%)	14.1%	16.1%	14.0%	-	-
経常利益	1,470	845	1,470	+0%	57%
経常利益率(%)	14.9%	17.2%	14.7%	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1011	550	1,050	+4%	52%
当期純利益率(%)	10.3%	11.2%	10.5%	-	-
1株当たり当期純利益(円)	137.36	74.54	141.86	+3%	-
受注残高	5,454	5,648	6,054	+11%	-

下期事業方針

制御機器事業



- 子会社合併・事業部統合の組織再編効果最大化に向けた効率化
- 高品位鉄鋼・非鉄金属メーカーへの販売活動注力
- IMS社との連携強化による海外展開の加速
- E+L社製品を含めた環境負荷低減に寄与する製品販売注力

検査機事業



- 二次電池業界をターゲットとした製品の販売拡大
- ペロブスカイト太陽電池向け検査装置案件進捗中。今後も拡大を目指す
- 高速化及び高機能化に向けた技術開発進捗中
- 食品検査分野で新たな検査方式を開発中

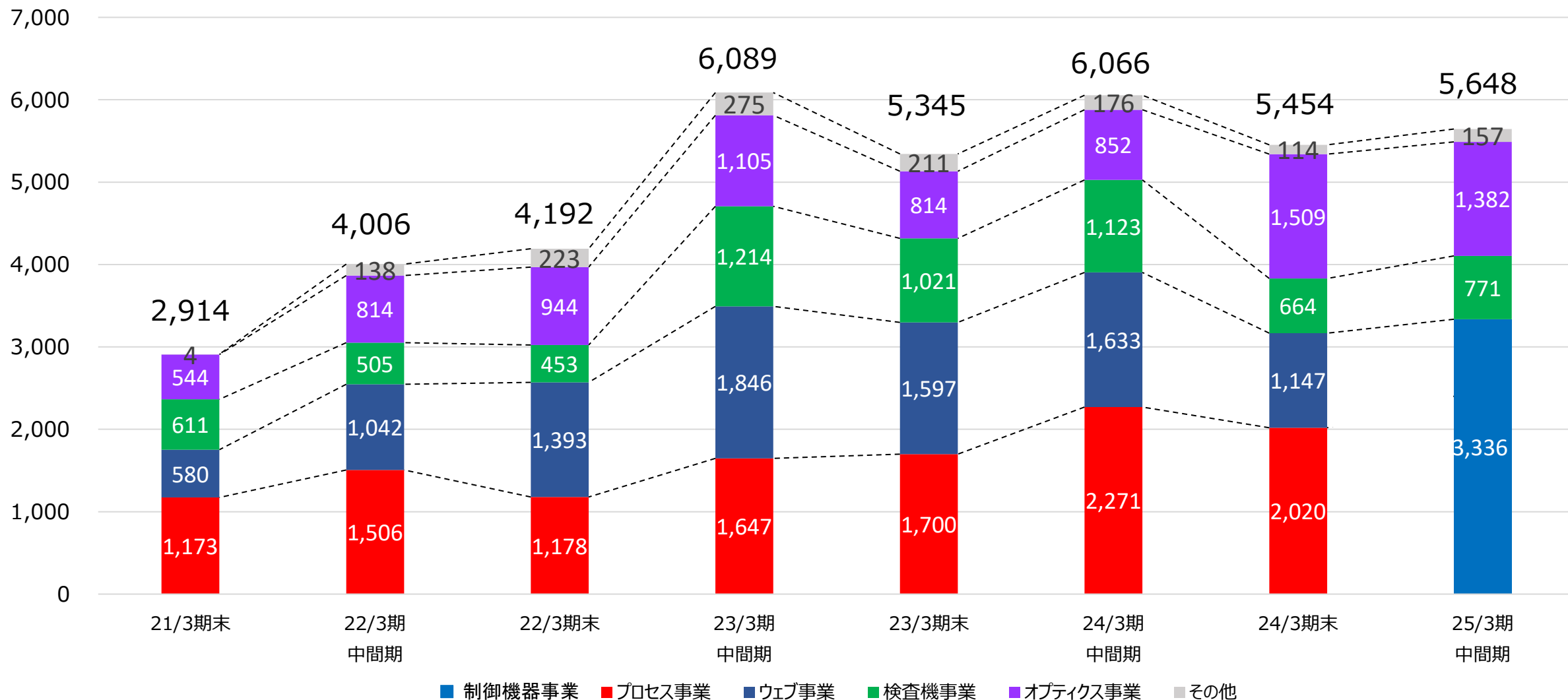
オプティクス事業



- 光学部品の生産能力増強
- 半導体分野、計測分野向けレーザ新製品開発
- 結晶加工・評価技術の強みを活かした新規開発
- 新たなグループ会社である京浜光膜とのシナジー創出

受注残高推移

(単位：百万円)

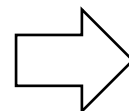


持続的成長に向けた成長テーマ

いかなる環境下においても成長できる企業グループの実現

市場の拡大

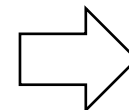
- ・ 海外展開の推進強化
- ・ 検査機事業の強化・オプティクス事業の強化
- ・ 新製品開発による新事業分野の開拓



事業基盤の拡大強化

技術の進化

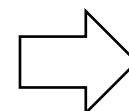
- ・ 画像解析技術の高機能化による製品展開
- ・ 光応用技術による製品開発



競争優位性の向上

経営体質の強化

- ・ 既存事業の収益改善
- ・ グループ・外部との連携強化によるシナジー最大化
- ・ 競争力強化のための人的投資、並びにインフラ投資



経営基盤の強化

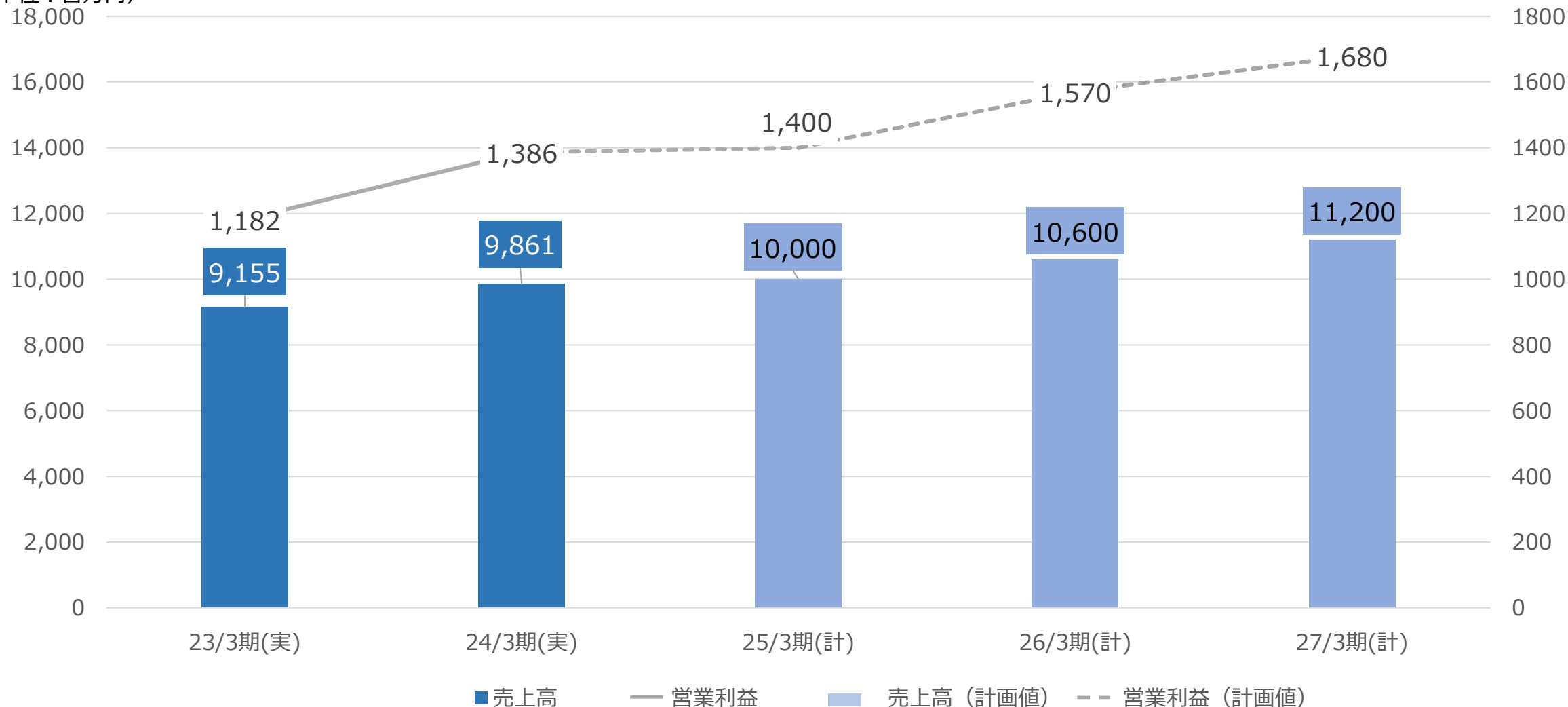
中期基本方針

- **利益を重視した方向性の強化**
- **安定的な事業基盤を有する制御機器事業部の事業効率向上と収益性強化**
- **検査機事業、オプティクス事業の成長促進**
- **事業環境の整備と将来の成長に向けた人への投資強化**
- **M&Aを含めた非連続的な成長の模索**

中期計画

足元の状況に鑑み、中期計画の見直しを図り、計画を上方修正

(単位：百万円)



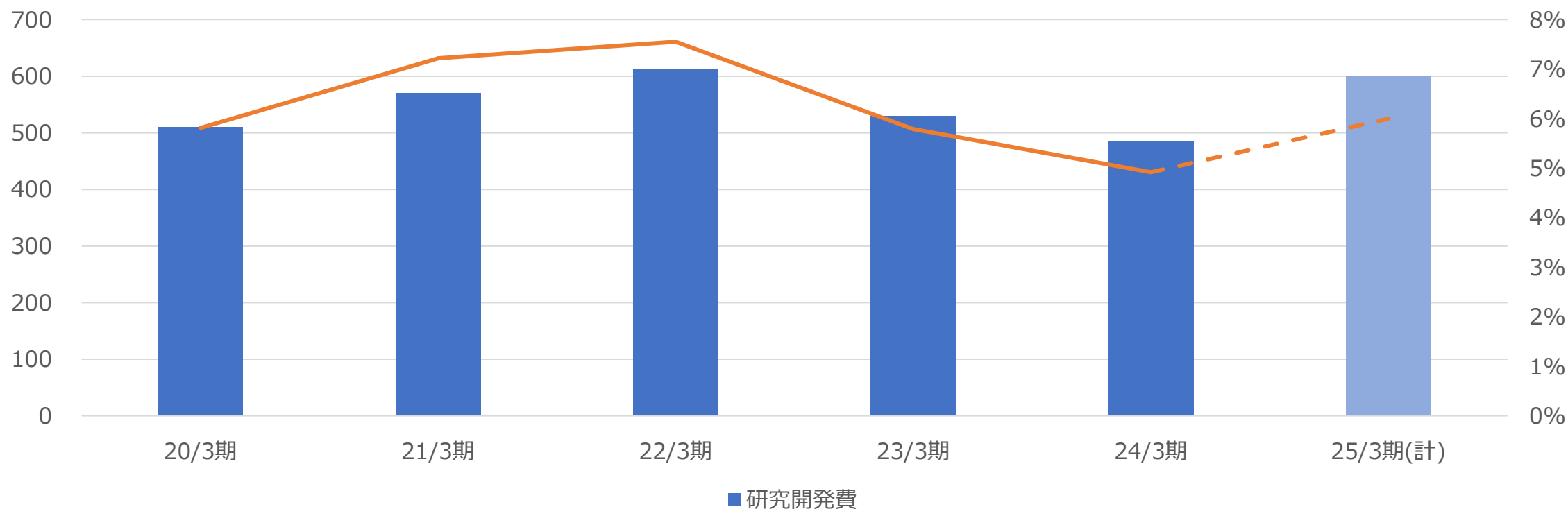
R&D

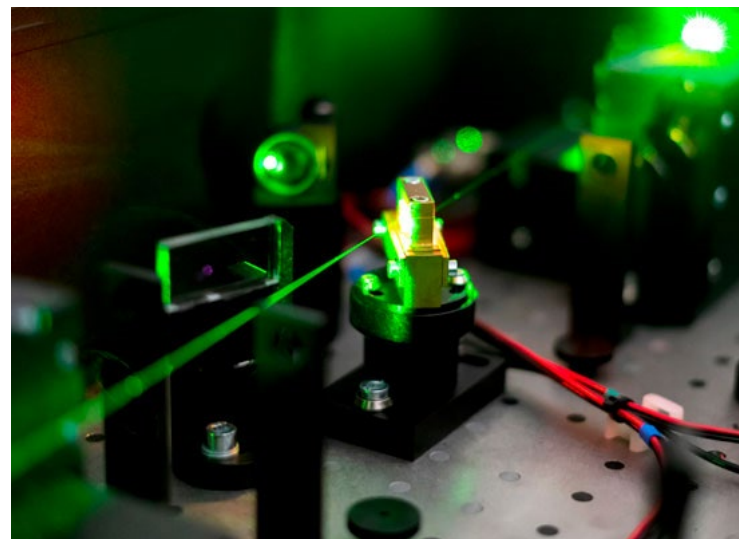
- 強みを持つ技術を活用し、新たな収益源の創出に向け、開発案件への取組みを加速

主な開発テーマ

- 次世代画像検査装置の開発
- レーザ技術による製品開発
- 光応用検査・計測装置の開発
- 提携先との技術交流を通じた開発

(単位：百万円)





3. トピックス

NIRECO

○. CSR報告書の公開について

当社のCSRに対する取り組み状況を発信するため、前年度のCSR活動をまとめた「CSR報告書 2023」を当社ホームページに公開しました。

今後ともCSRの観点を含めたニレコの情報をステークホルダーの皆様にお伝えしてまいります。



○. 京浜光膜株式会社の株式取得について

2024年10月1日に京浜光膜株式会社の全株式を取得し、同社を子会社化しました。京浜光膜(株)の前身である京浜光膜工業(株)は、光学薄膜の設計、真空蒸着法による光学製品の製造・販売を手掛けていましたが、今般、組織再編の一環として秦野工場が担っていた業務を京浜光膜(株)として新設分割し、当社が新設された京浜光膜(株)の株式を取得しました。

今後は京浜光膜(株)が有する高度な薄膜生成技術の活用とグループ内での光学分野での連携強化により、オプティクス事業のさらなる成長を図ります。



京浜光膜株式会社本社（神奈川県秦野市）



真空蒸着装置



低真空スパッタ装置

○. 光学技研の波長板を搭載した太陽観測衛星が観測に成功

当社グループ会社である株式会社光学技研の波長板が搭載された近赤外線偏光分光装置SCIPを備えたSUNRISE-Ⅲがフライト観測に成功した旨が紹介されました。

SUNRISE-Ⅲは国立天文台 太陽観測科学プロジェクトにて2024年7月10日に打ち上げられ、6日間にわたるフライトにおいて非常に高品質な太陽観測データを取得したと報告されています。SUNRISE-Ⅲには3つの観測装置が備わっており、そのうちの近赤外線偏光分光装置SCIPに株式会社光学技研の波長板が搭載されていました。

○. 米国Bowman社製XRF薄膜測定装置の国内総代理店契約締結

2024年10月1日付で据置型XRF測定装置の専門メーカーである米国Bowman社と、日本国内における総代理店契約を締結しました。

半導体業界では回路の高集積化に向けた次世代パッケージ基板の開発が進められており、その検査用途に多層化された回路パターンの膜厚測定が注目されています。

Bowman社のXRF薄膜測定装置は、同時に最大5層の各膜厚を高精度に測定可能であり、次世代パッケージング基板検査への活用が期待されています。同社測定装置の既存販売先である電子部品業界、PCB業界、めっき業界等に加え、先端半導体パッケージング分野への進出を図ることで、当社グループの半導体業界への更なる事業拡大を目指します。



NIRECO

参考資料

会社概要

会社名	株式会社ニレコ
代表取締役社長	中杉 真一
本社所在地	東京都八王子市石川町2951-4
設立	1950（昭和25）年11月
上場市場	東京証券取引所スタンダード
資本金	3,094百万円 ^{*1}
連結従業員数	450名 ^{*2}
連結売上高	9,861百万円 ^{*2}

* 1. 2024年9月末現在

* 2. 2024年3月期連結

沿革

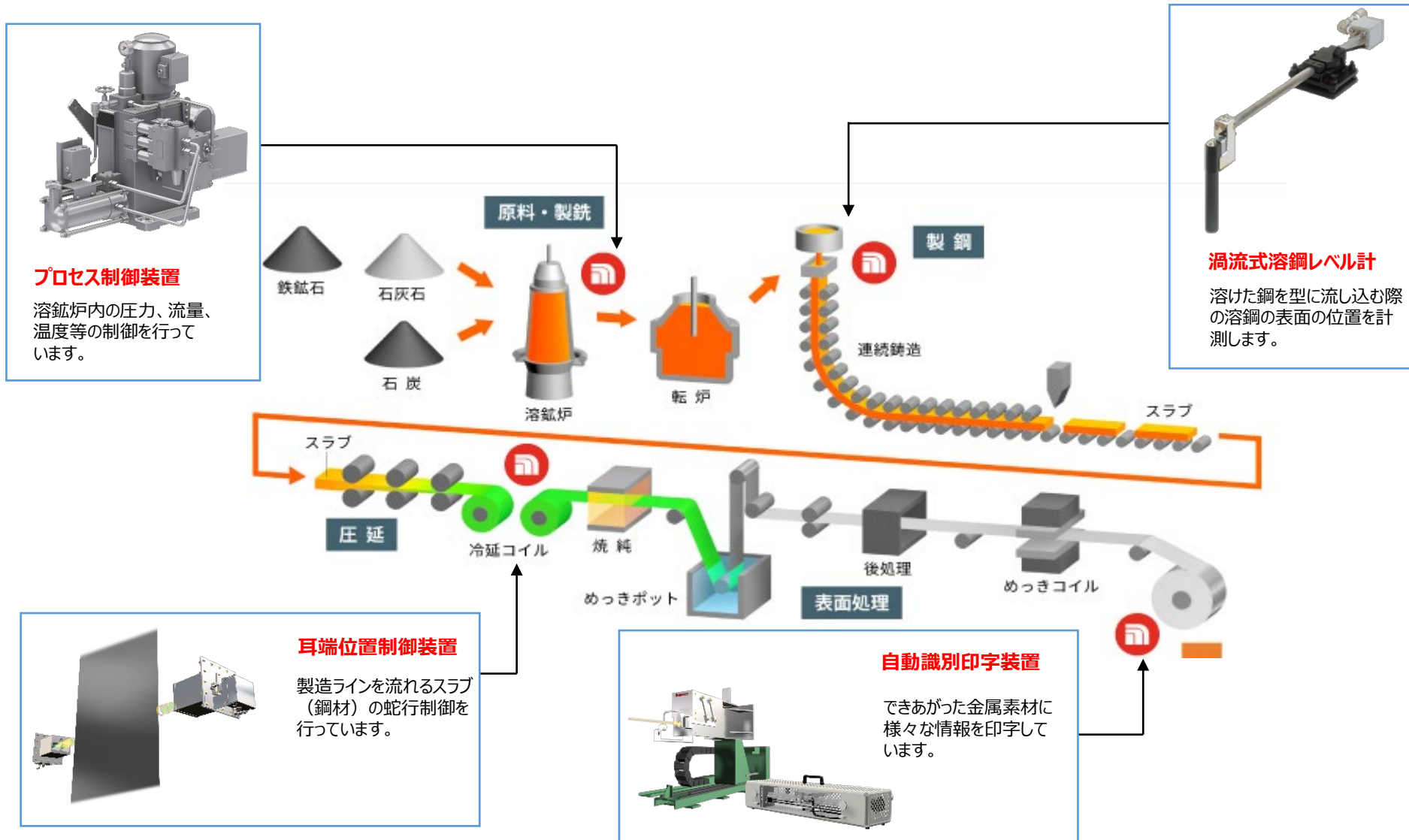
- 1950年 : 東京都中央区に日本レギュレーター株式会社を設立
- 1979年 : 東京都八王子市に本店を移転
- 1984年 : 商号を「株式会社ニレコ」に変更
- 1989年 : 日本証券業協会に株式を店頭公開
- 1990年 : ミスミ電子株式会社（現ミヨタ精密株式会社）を子会社化
- 1998年 : 仁力克股份有限公司を子会社化（台湾）
- 2003年 : 尼利可自動控制機器（上海）有限公司を設立（中国）
- 2004年 : JASDAQ証券取引所に上場
- 2013年 : 東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）上場に移行
- 2014年 : Nireco Process Korea Co., Ltd.を設立（韓国）
- 2018年 : Nireco Process Korea Co., Ltd.が土地・建物取得し生産体制整備
- 2019年 : 株式会社光学技研を子会社化
- 2021年 : 西武電機株式会社を子会社化
- 2022年 : 東京証券取引所の市場再編に伴い、スタンダード市場へ移行
- 2023年 : Nireco Process Korea Co., Ltd.が社名をNireco Korea Corporationへ変更
- 2024年 : ミヨタ精密株式会社を吸収合併
京浜光膜株式会社を子会社化

「技術と信頼」

われわれは、制御、計測、検査の技術を活かした製品ときめ細かいサービスの提供により、お客様から厚い信頼を獲得し、良きパートナーとして共に成長します。さらに、パートナーシップにより生み出した価値を広く社会に応用することで、豊かで持続可能な社会の実現に貢献していきます。

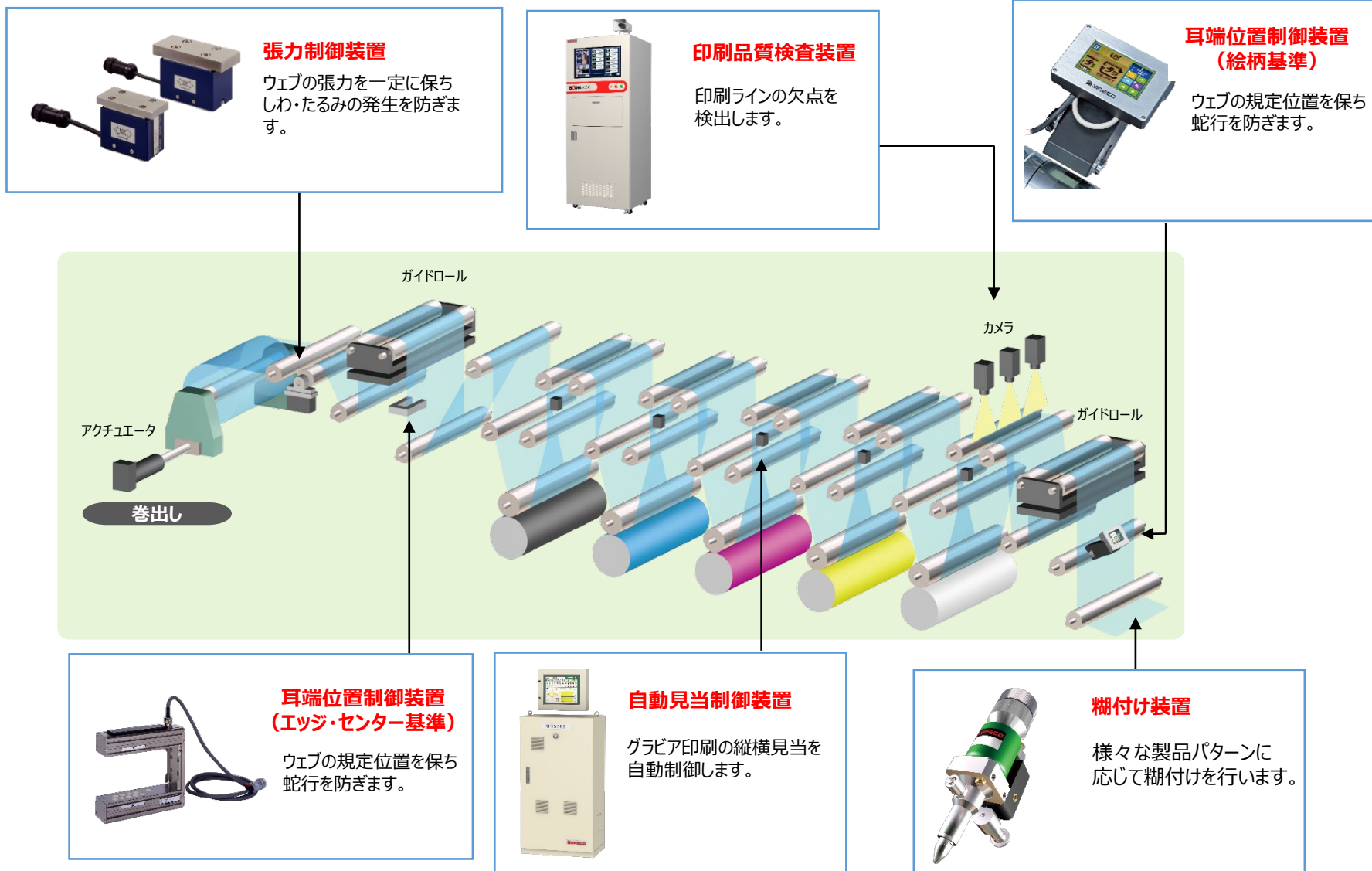
制御機器事業：鉄鋼・非鉄金属分野

鉄鋼をはじめ、金属、ガス、化学工業等あらゆる工業における自動制御装置を扱う事業です。



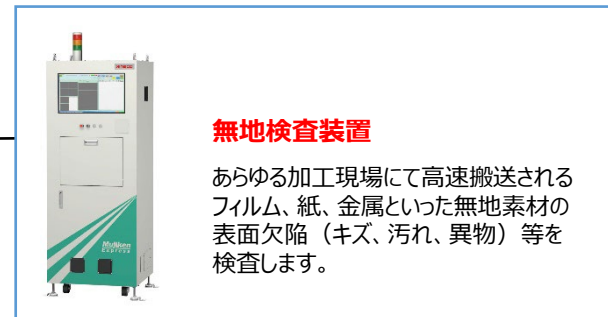
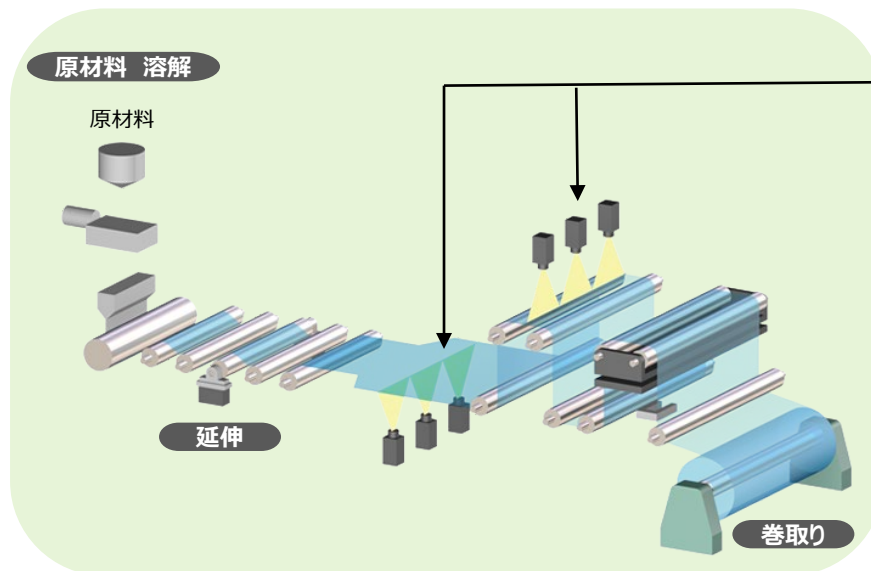
制御機器事業：フィルム・印刷・紙分野

主に紙・フィルム・箔等薄いシート状素材（＝ウェブ）の位置制御装置等を扱う事業です。



検査機事業

長年に渡り培ってきた画像処理技術をベースに、農産物から電子部材に至るまで幅広い製品の品質検査装置を扱う事業です。



オプティクス事業

長年に渡り培ってきたレーザ関連製品やグループ会社の株式会社光学技研が取り扱う高度な技術を必要とする特殊な光学部品を扱う事業です。

➤ 主要用途：

- 半導体検査装置
- 光学機器
- 医療機器

光学部品



非線形光学結晶

深紫外光への波長変換に適したCLBO素子を提供し、先端半導体検査装置等で用いられています。
独自の加工技術で、世界の複数の半導体検査装置メーカーから高い評価を受けています。

偏光子

特定の光を取り出すことのできる偏光子を、学研究分野、光学機器分野、レーザ用途等、幅広く提供しています。



レーザ関連製品



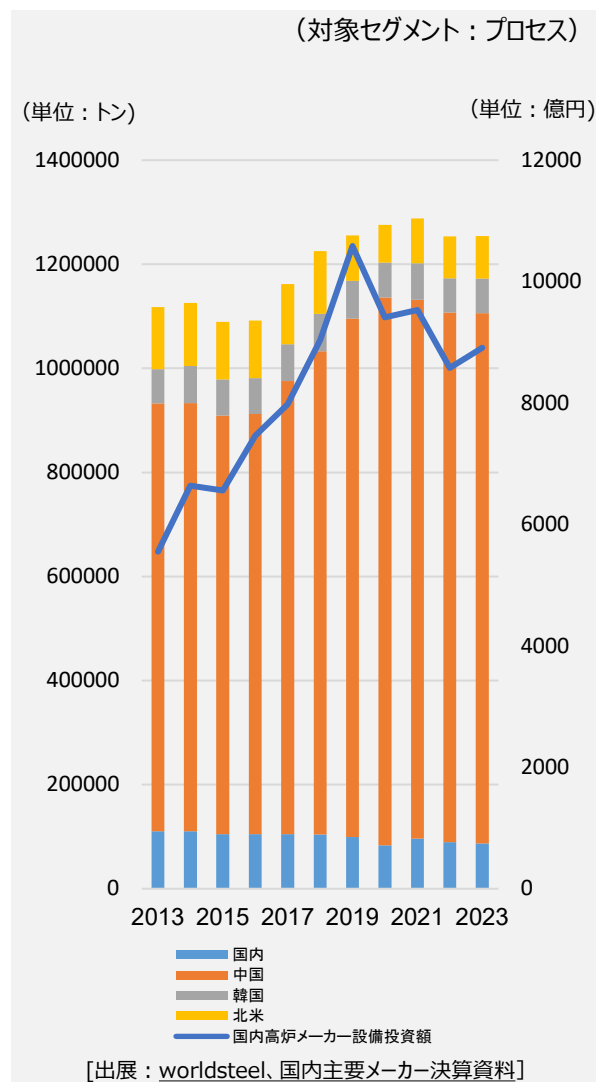
深紫外ファイバーレーザ Cygnus
深紫外ファイバーレーザを用いたマスク検査を実現します。
定期的なメンテナンスは年1回と安定的な性能を有しています。



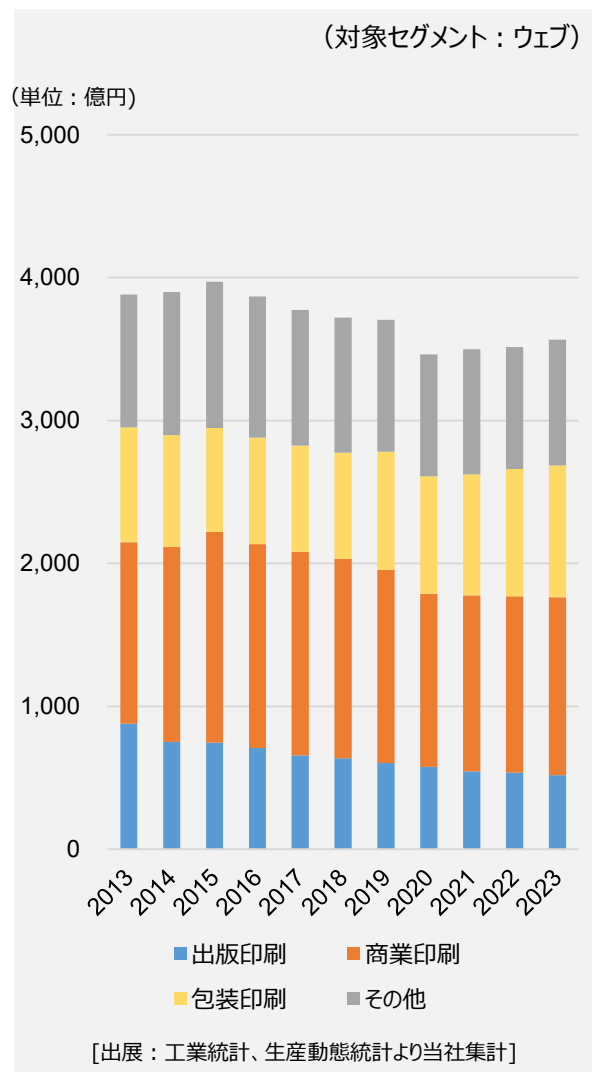
レーザ装置 HR-G10
高出力グリーンレーザを用い、シリコンウエハへの加工、金属へのマーキング、樹脂内のマーキング、薄膜加工等、多用途に用いることが可能です。

各事業市場動向

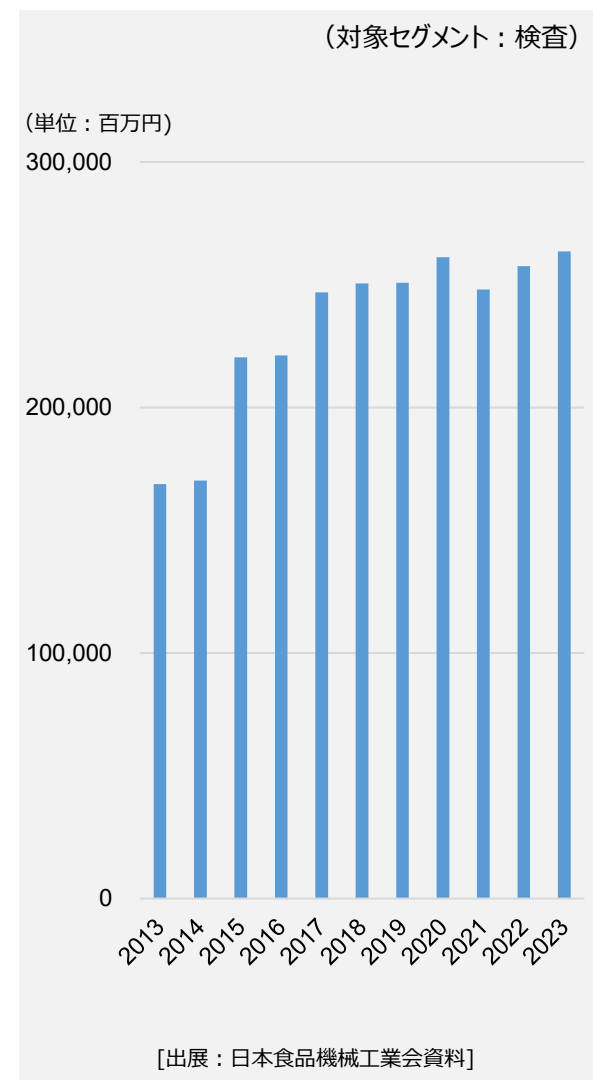
地域別粗鋼生産量及び
国内高炉大手設備投資額の推移



印刷市場規模の推移

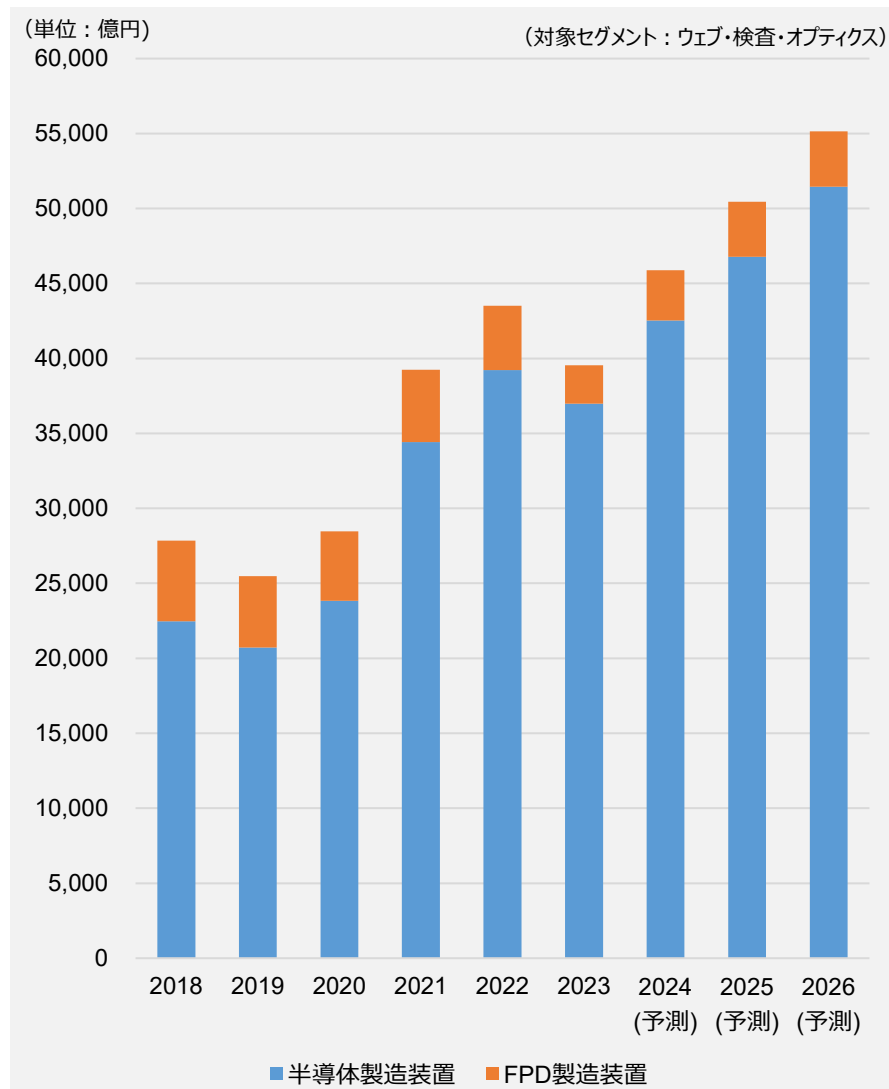


食品機械国内販売額の推移
(除、加工機械)



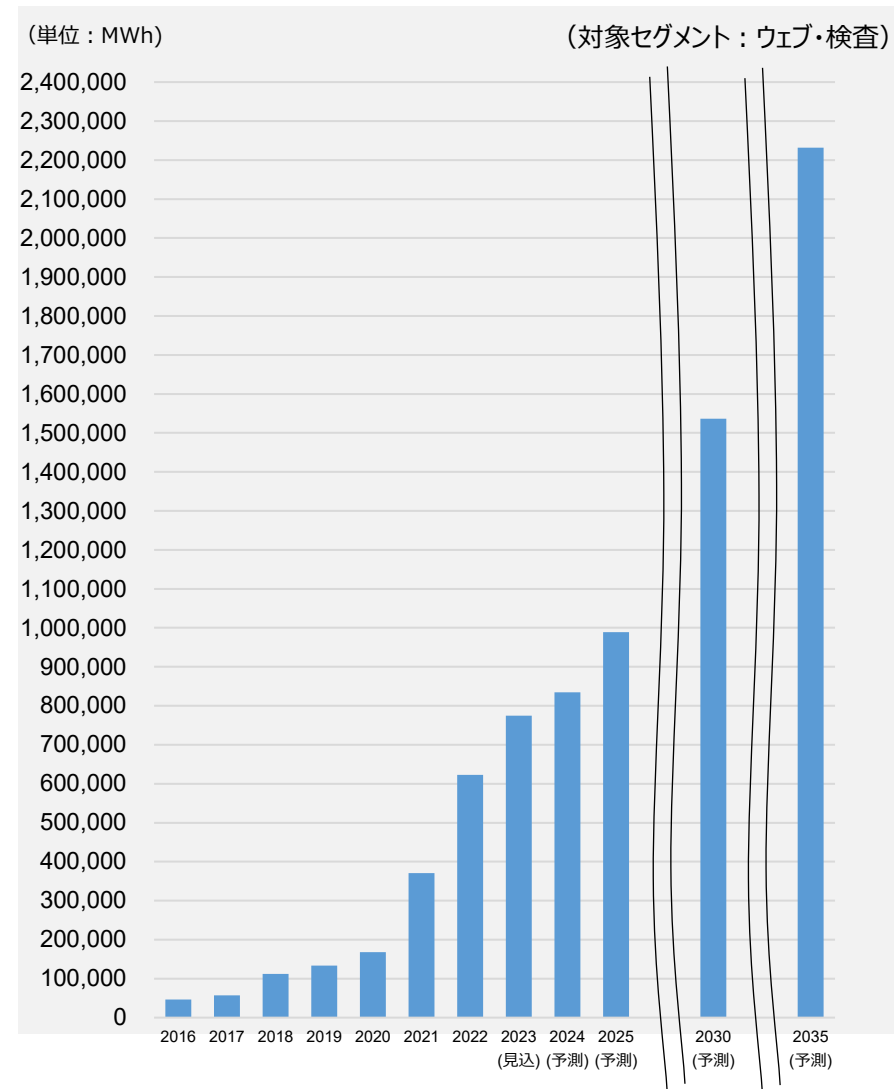
各事業市場動向

半導体・FPD製造装置需要予測



[出展：日本半導体製造装置協会]

車載用Lib世界市場予測



[出展：矢野経済研究所資料]

NIRECO